

東京歯科大学同窓会会報 第378号

目 次

グラビア セピア色の写真館

巻 頭 言	1
お知らせ	2～4
会 務	5～6
ゴルフ大会	7～9
渉 外	10
学 術	11
母校だより	12
会員トピックス	13～14
支部のうごき	15～21
ふるさと自慢	22
クラス会だより	23
OB会・グループ・サークルだより	24～26
すいどうばし	27
庶務日誌	28
逝去会員	29～30
追 悼	30～31
へんしゅうこうき	32

(表紙 河原俊朗)

セピア色の写真館 ～思い出の一枚～

サーフィン部



写真上 昭和57年 鴨川での月例会
写真下 昭和59年 御前崎合宿（中央、井出先生）



昭和59年 御前崎合宿 (左から二人目, 井出先生)



平成元年 作田での月例会

サーフィン部

～ 波に乗れなかった

カメラサーファー ～

私がサーフィン部に入部したのは、華麗な波乗りに憧れてではない。写真が趣味だった私は、既にサーフィン部で活躍していた同級生の松澤政彦君に誘われて、カメラマンとして入部したのである。

昭和59年当時サーフィン部はまだ同好会で、学内ではアウトロー的なイメージが強かったが、会の規律は厳しかった。その頃は毎月1回の月例会、5月の伊豆合宿と8月の御前崎合宿、さらに8月には全日本医科歯科学学生サーフィン選手権大会への参加が主な年間スケジュールで、部員一同、大会での優勝を目指して頑

張っていた。そして第2回大会、主幹校としても大役を果たした第3回大会では、念願の連続総合優勝を果たすことができた。

そんなある時、御前崎合宿で部内を震撼させた事件が起きた。当事者は私である。

その合宿には、まだ若々しい助教だった部長の井出吉信先生も参加くださっていた。合宿での模擬大会は全員参加が決まりなので、カメラマンの私はもちろん、井出先生もウエットスーツに身を包み、ボードの上に身を乗せて沖へ向かってこぎ出した。ところが井出先生も私も初心者同士の悲しさ、波に乗るどころか、サーフボードの上に立つことすらできず、ボートの上でバタバタし

ていた。とうとう一際高い波を受け、両者とも波に揉まれて海中に投げ出されてしまった。その瞬間、私のボードはあろうことか井出先生の口の中に突撃し、先生の口の中を赤く染めてしまったのである。

先輩からは、「井出先生の口の中にサーフボードを入れたのはおまえぐらいだ！」と一喝された。井出先生、その節は大変失礼いたしました。

現在サーフィン部現役部員は11名、OB会会員は98名。定期的に大会、新年会等で現役とOBとの交流を図っている。どんな荒波にも負けない私たちサーフィン部は、本年創部30周年を迎える。

(昭和63年卒 渡邊宇一 記)



平成2年 日向金ヶ浜での全日本医科歯科学学生サーフィン選手権大会



平成4年 九十九里志田下海岸での全日本医科歯科学学生サーフィン選手権大会 (主幹校)

組織力づくりは人づくり



副会長

梅 村 長 生

ハーバード大学サンデル教授の正義を巡る講義や著書が話題沸騰となっている。1980年代から世界はIT化によるグローバリズムの進展に伴い、個人主義、市場主義、実力主義の考え方が蔓延していった。この風潮は、社会保障・医療制度の政策に色濃く反映され、その中で日歯や同窓会もこれらの主義に巻き込まれ、不幸な事件となった。これらが、金融崩壊を招いたことで改めて人びとが、「人生を生きる価値あるものにするには、どう

生きるべきか」を問い始めたことが、サンデル教授の提起への白熱した議論となっているに違いない。

では、時代の流れの速い、構造転換の進む社会の中にあって、「同窓会とは何か」、この問いに執行部は真剣に向き合っている。

しかし、リベタリアンが多い若い人に対して、個人の自由と共同体の利益という対立する軸を「よりよい同窓会」を作るという理想だけで理解を得られるかは疑問である。したがって、同窓会改革検討特別委員会は、改革に向けて組織強化、大学との連携強化、事業改革、若手対策、機構改革など多面的な改革案を提言した。その内容は傾聴に値するものばかりである。

同窓会組織が組織として会員に認識されるには、①コミュニケーションによって共有する世界が一緒である、②関与する人びとの交替によって左右されない持続性がある、ということである。そのためには、こつこつと会員に対し、各種の情報を提供し、同窓会の主張の説明責任を果たしつつ、同窓会の将来への夢を語ることだと思う。

日本の社会保障制度は、その財源のあり方をめぐって、公助、互助から自助、自立への方向へと政策、法律の転換を強めつつある。地方主権の根本は、広域行政のワクを拡げつつ、地方は地方の努力による自立を促すものである。それでは、地域のセイフティネットが弱くなるので、医療は中学校単位でのネットワークを構築し、病院に収容できない人を在宅医療で見取る政策を推進する。社会保障カード（仮称）は年金や医療保険などの社会保障情報と組み合わせ、税務や行政全般の情報管理のリスクやコストを少なくしようとするものである。その意味で、究極の個人情報である疾患の治療経過を検査データも含め一元管理するレセプトオンラインは、国家の管理の共通番号制度の根幹をなす。

同窓会組織はこういった情報を提供しつつ、知識づくりが中心となったインターネット活用の情報社会の中で、人と人との関係作りを社会資源とする仕組み革新を目標としている。今回の改革はサンデル教授の目指す「異なる意見に耳を傾けつつ、道徳的に正しい善良な生き方を探りながら、市民が共通善を語る」ことに通じるような組織改革を目指している。「大事を済すにはかならず人をもって本となす」（三国志）のごとく、同窓会の組織力づくりは、まず次世代の「人づくり」を基本とした。

お知らせ

理事会より

●会則検討特別委員会

第一回委員会は9月15日に開催され、同窓会改革にむかって執行部案を遂行するために必要な会則変更と、今後の同窓会運営のための会則の見直しを諮問しました。委員会は7人編成で、委員長には池田恒彦先生（昭和42年卒）、副委員長には中島信也先生（昭和59年卒）が選出され、第一回目から活発な議論が展開されました。評議員会まで限られた日程のため、第二回委員会が10月1日と短い期間をおいての開催となりました。

●保険部

今回、「保険診療ポケットブック」を会員の皆様にお届けいたします。本冊子は、これまで保険改訂年度に平成14年よりお届けいたしておりました「保険診療の手引き」に換わるものとして作製いたしました。「保険診療の手引き」に於きましては、過去4版を重ねてまいりました。保険部に於きましては、先生方に診療録（カルテ）記載とは、どうあるべきか、保険請求上の問題は勿論、カルテ開示や医事処理問題に対応できる内容を本校らしく学術的根拠を踏まえて編集してまいりました。その様な主旨も、これまでの4版でご理解して頂けたと思われましたので、今回は実用的なポケットサイズの冊子を同封いたします。

白衣のポケットに常備して頂き、チェアサイドで手早く疑問点を解決して頂けますように作製いたしました。先生方の診療に役立てて頂ければ幸いです。ご活用の方よろしく願いいたします。

同窓会事業・行事

●平成22年度東京歯科大学同窓会評議員会・定時総会

と き 平成22年11月27日（土）

ところ 如水会館（千代田区一ツ橋2-1-1）

母校関係行事・案内

平成23年度 東京歯科大学 入学試験情報

入学種別	募集人員	出願期間(必着)	試験日	合格発表日	会場
推薦(指定校含む)	約45名	11月1日(月) ～11月9日(火)	11月13日(土)	11月16日(火)	東京会場 (東京歯科大学水道橋校舎)
帰国子女・留学生	若干名				大阪会場 (天満研修センター)
学士編入学	若干名				福岡会場 (TKP 天神シティセンター)
一般入試Ⅰ期	約50名	12月16日(木) ～1月27日(木)	2月2日(水)	2月5日(土)	東京会場 (東京歯科大学水道橋校舎)
センターⅠ期	13名				大阪会場 (天満研修センター)
一般入試Ⅱ期	約15名	2月22日(火) ～3月8日(火)	3月12日(土)	3月15日(火)	福岡会場 (TKP 天神シティセンター)
センターⅡ期	5名				東京歯科大学水道橋校舎
編入学	若干名				

会務アラカルト

聞こえてくる同窓会改革の足音

同窓会改革の足音が聞こえてきました。いろいろな会議や委員会からの意見を聞きながら見直しや調整を行い、同窓会改革の方向性が固まってきました。その案は、この11月27日（土）に開催される平成22年度評議員会でご協議いただき、承認されると一部平成23年度から事業計画としてスタートすることになります。昨年春に事業等検討特別委員会を立ち上げ、同窓会には改革が必要であることを提案しました。支部・地域支部連合会との連携強化について、大学との連携について、シンクタンク機能や若手同窓のための研修を企画すること、そして執行部や評議員会の機構改革など具体的な改革案が提案されました。昨年の評議員会では、これら同窓会改革について協議され、同窓会改革の必要性が理解され、さらに執行部外に委員会を編成し検討を続行するという意見を頂き大きく一步前進をしました。今年に入り、3つのワーキンググループを作って関係資料を集め、具体的な基礎資料を作成するための情報ネットや若手の研修など一部トライアルとして企画するなどの準備が始まりました。ほぼそれと同時に同窓会改革検討特別委員会を立ち上げ、同窓会改革についてご議論いただきました。委員会からの答申は7月に提出され、その後の理事会においてその答申書の取り扱いについて協議され、執行部としての同窓会改革の方向性が定まりました。(1)支部・地域支部連合会との関係強化、(2)母校との連携強化、(3)シンクタンク機能の推進、(4)卒後研修事業の見直し、(5)本部同窓会執行部及び評議員会の改革、このうち(1)から(4)までは平成23

年度事業計画にイれてスタートを、そして(5)の案は今後議論や各支部や地域支部連合会からの声を聞きながら調整が必要ということから協議題として上程する方向で進んでいます。会則検討特別委員会においても、同窓会改革案を遂行するために必要な会則変更と、今後の同窓会運営のために必要な会則の見直しも行っていたいております。評議員会ではかなり具体的な案として評議員の先生方にお見せできると思えますし、それに対して忌憚のないご意見を承ればと考えております。5～6ページに評議員会・総会の予定が掲載されていますので是非ご覧下さい。

同窓会改革がめざすもの

さて、同窓会改革の内容ですが、それぞれの会員に対して「より速く」、そして「分りやすく」との声に込められるよう、同窓会報で紹介させて頂きました。この夏から秋にかけていくつかの地域支部連合会総会に出席した時には、貴重な総会の時間を頂いて、スライドを使って同窓会改革の説明をしました。ご理解いただいたつもりが、「やっと分った」、「まだシンクタンクの意味が解らない」など色々な声を頂きました。ここでより分りやすく紹介しますが、どんな問題を解決しようとしているのか、どんな課題があるのか、改革により何を期待しているのかを説明したいと思います。

管理系ワーキンググループでは会費収入の変化を分析しています。会費は現在18000円ですが、年度会費をすぐに払ってくれる人、翌年とか何年か経過して払ってくれる人、

納入者数を指数として比較してみました。そうしますと平成14年度、15年度など、指数で6000であったのが、次第に減少傾向を示し指数で5500に、そして将来5000を切る懸念をもたせる結果が出てきました。次に、支部に加入かどうかで会費納入を比較してみました。支部加入者ではほとんどの人が会費を支払っているのに対し、支部未加入者では4分の1と差が大きく、この部分が今後の会費収入を左右することが見えてきました。さらに、統計はつづき、支部未加入者数を卒業年度別で調べてみますと、圧倒的に若い世代が多いことも分かりました。これは会費収入の問題どころか、今後の同窓会の存続の危機を示唆するものであり、同窓会改革の骨子を作ってゆくうえでの最重要課題となっています。

同窓会改革として考える上でもう一つ大切なことがあります。それは母校創立120周年記念事業の一環である水道橋への移転です。同窓会本部が水道橋にあるので同窓会活動も地理的にどうしても東京が基点になってきました。母校と同窓会活動の基点が近づくことにより、大学への協力、学術など同窓会活動、学生と同窓との接点を今一度新しい視点で見直し、より親密な関係を持ち、それぞれにプラスにはたらくような形作りができるわけです。内容は今後の課題となりますが、いままで学術部活動では大学と連携してセミナーを行ってきましたが、さらにより専門性の高いセミナーや、臨床疫学などの調査研究、歯科保健制度、歯科医療制度、卒後研修のあり方を考える部分、そして人材を育成してゆく部分などが同窓会改革案にも含めることができ、歯科界のリーダー

シップを東京歯科大学同窓会がとっていけることを期待することができます。

見出しの“同窓会改革がめざすもの”，この回答はこれまで述べてきた問題を数的に改善すること，そして課題を実現していくことです。さらに，いろいろな分野で同窓が活躍する場面が増えるように願うことです。ここまで触れてきませんでしたが，支部・地域支部連合会との関係強化も大切で，全国津々浦々，組織一丸となって同窓がまとまる方向で進めていく必要があります。支部との情報ネットの推進を積極的に行います。パソコンメールを使った情報ネットワークを利用することにより，気軽に情報を受けたり，送ったりすることができ，地域による情報のばらつきを解消できますし，遠い将来には支部に送った本部情報がすぐに会員各位にとどくようになり，情報ネットが地理的なハンディキャップを克服できるかもしれませ

ん。そしてできるだけ本部役員が支部や地域支部連合会に出向き意見交換を密にして情報を共有化し，同窓が同じ方向にむけるようになっていきたいと思います。

ブロック別渉外部委員会（仮称）テストケースがおこなわれました

渉外活動は全国レベルのもので本来ならば全国から委員に集まってもらい，意見交換やディスカッションをすべきですが，現実的には無理なので，各地域支部連合会ごとに集まってもらい，そこに担当役員が出向いて全国的な情報の共有化を図ればというアイデアで，本稿でも紹介してきました。そのテストケースが，東海地域支部連合会総会の日（午前中）に開催されました。4支部から6名の先生方にお集まりいただき，冒頭，梅村長生渉外部担当副会長が「歯科医療制度は取り残されている。この危機を打開するには各地域に対して情報を発信し，共通認識

のもと，地域から声をあげてもらい，それを基盤に歯科医療の政策のための基本的な方向性を作っていく。その組織作り，そして人材育成を東京歯科大学が先鞭を付けてやってく」との新しい方向性を熱く解説しました。午後の総会の来賓でもある川口 浩先生に歯科界の現状や解決への方向性などのお話をいただき，その後，島村 大渉外部担当常任理事の進行で各委員から各地域の現状や悩みや歯科医療についての様々な意見を頂きました。若い委員の先生からは同窓会離れの具体的な解決案を示してもらうなど斬新なアイデアをいろいろ提供してもらえました。各地域からの声を集め，それを集約し蓄積していけば新しい道がおのずから見えてくるのではないかということを実感するとともに，今回の企画意義がはっきりと見えてきました。「次回は名古屋で開催したら」との提案もあり，このような会合の必要性を心より実感致しました。

東京歯科大学同窓会 若手同窓会員むけ無料研修会

「医療事故・カルテ開示に対応する」

これから臨床において活躍する諸君へ！！
テレビや新聞で，最近報道されている医療事故。その実態を検証し，未然に防ぐにはどうするか。学術的根拠に基づいて，講師陣と君たちでディスカッションします。
モンスターペーシェントなんか怖くない！！
患者さんとのコミュニケーション不足を解消し，信頼関係を構築するには，どうすれば良いの。
こんな研修会に，参加してみませんか。

日時：平成22年11月7日（日）13：00～17：00

場所：水道橋 TDC ビル 13F セミナー室

講師：片倉 朗 口腔外科准教授
稲葉孝夫 東京都歯科医師会医事処理担当理事
山口和彦 東京歯科大学同窓会保険委員

参加方法：下記を記入して，Fax 03-3264-4859へ

氏 名		勤 務 先	
卒 年		連 絡 先 (T e l)	

会 務

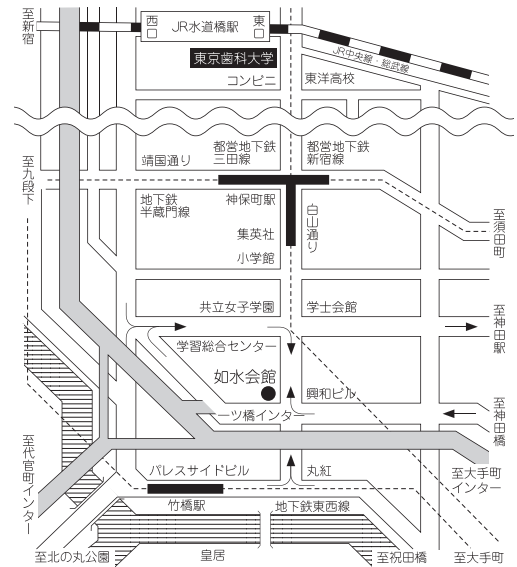
平成22年度東京歯科大学同窓会評議員会 定時総会 懇親会 日程

1. 日 時 平成22年11月27日 (土)
2. 会 場 如水会館 2階 スターホール
東京都千代田区一ツ橋2丁目1番1号
電話番号 03 (3261) 1101 (代表)
3. 日 程

区 分	時 間
評 議 員 会	午前10時00分～午後3時45分
定 時 総 会	午後3時55分～午後4時35分
懇 親 会	午後4時40分～午後6時00分

平成22年度 東京歯科大学同窓会評議員会 (午前10時00分～午後3時45分)

1. 開 会 の 辞
1. 点 呼
1. 会 長 挨 拶
1. 来 賓 挨 拶
1. 議 長, 副 議 長 選 出
1. 議 事 録 署 名 人 指 名
1. 黙 禱
1. 報 告
 - (1) 平成22年度 会 務 報 告
 - (2) 平成22年度 会 計 現 況 報 告
 - (3) 東京歯科大学の現況報告
1. 議 事
 - 第1号議案 平成21年度 経常部収支決算
 - 第2号議案 平成21年度 特別会計収支決算 (同窓会基金, 血脇記念基金, 共済基金, 名簿積立金, 退職積立金)
 - 第3号議案 平成21年度 卒後研修セミナー, 卒後研修セミナー積立金収支決算
 - 第4号議案 平成21年度 時局対策費積立金会計収支決算
 - 第5号議案 平成21年度 財産目録 (監 査 報 告)
 - 第6号議案 財産 (備品) 廃棄処分



最寄りの駅からの案内図

- 第7号議案 同窓会改革に関わる東京歯科大学同窓会会則一部変更を求むるの件
- 第8号議案 会員資格等に関わる東京歯科大学同窓会会則一部変更を求むるの件
- 第9号議案 東京歯科大学同窓会緊急時歯科医師委嘱制度について
- 第10号議案 平成23年度 事業計画
- 第11号議案 平成23年度 入会金 (現行本学出身の会員5000円, 推薦会員50,000円)
- 第12号議案 平成23年度 会費 (現行18,000円)
- 第13号議案 平成23年度 経常部収支予算
- 第14号議案 平成23年度 共済負担金 (現行3,000円)
- 第15号議案 平成23年度 特別会計収支予算 (同窓会基金, 血脇記念基金, 共済基金, 名簿積立金, 退職積立金)
- 第16号議案 平成23年度 卒後研修セミナー, 卒後研修セミナー積立金収支予算
- 第17号議案 平成23年度 時局対策費積立金会計収支予算
- 第18号議案 平成23年度 名誉会員の推薦

1. 協 議

(1) 同窓会の機構改革について

1. 名誉会員表彰式

1. 叙勲, 褒章受章者顕彰式

1. 同窓会会長賞表彰式

1. 閉 会 の 辞

第116回 東京歯科大学同窓会定時総会

(午後3時55分～午後4時35分)

1. 開 会 の 辞

1. 会 長 挨 拶

1. 議長, 副議長選出

1. 議事録署名人指名

1. 報 告

(1) 平成22年度 会務報告

(2) 平成22年度 評議員会報告

(3) 平成23年度 経常部, 特別会計, 卒後研修セミナー, 卒後研修セミナー積立金, 時局政策費積立金会計収支予算

1. 議 事

第1号議案 平成21年度 経常部収支決算

第2号議案 平成21年度 特別会計収支決算(同窓会基金, 血脇記念基金, 共済負担金, 名簿積立金, 退職積立金)

第3号議案 平成21年度 卒後研修セミナー, 積立金収支決算

第4号議案 平成21年度 時局対策費積立金会計収支決算

第5号議案 平成21年度 財産目録
(監 査 報 告)

第6号議案 財産(備品)廃棄処分

第7号議案 東京歯科大学同窓会会則一部変更を求むるの件

第8号議案 東京歯科大学同窓会緊急時歯科医師委嘱制度について

1. 協 議

1. 閉 会 の 辞

東京歯科大学同窓会各種委員会委員

(平成22年9月15日～平成23年12月31日)

会則検討特別委員会

◎池田恒彦(S42卒) 中川杉生(S44卒) 財部正治(S52卒) 石原忍(S54卒)
佐藤亨(S54卒) ○中島信也(S59卒) 宮本一彦(S60卒)

敬称略 ◎印は委員長 ○印は副委員長



ゴルフ大会

第38回 同窓会主催全国ゴルフ大会を終えて

本年の大会は「母校創立120周年記念大会」と銘打って、9月2日(木)、神奈川県相模原カントリークラブ・西コースにて開催されました。相模原カントリークラブは昭和30年開場の名門で、5万本以上の樹木に囲まれた日本を代表する風格ある林間コースです。過去には日本オープンなど数々のビッグトーナメントの舞台ともなりました。特に西コースは変化に富み難易度が高く、まさに真のチャンピオンコースでの大会開催となりました。

競技はアンダーハンドィの18ホールストロークプレーで行われ、ハンドィキャップはダブルペリア方式で算定しました。当日の参加者は113名で、その内シニア(65歳以上)は35名、女性は5名でした。

今年は例年にない猛暑が日本列島を襲い、大会当日も相当の暑さが予想されましたが、微風があり、比較的爽やかなコンディションのもとにプレーができました。相模原カントリークラブのコースコンディションの良さは大変素晴らしく、グリーンはもとよりフェアウェーやラフの状態はとても良く整備されておりました。特にこのコースの戦略性には特筆すべきものがあり、完璧な方向性が要求され参加者の皆様はフラットながらもバンカーと高い木が戦略的

に配置されたコースレイアウトへのマネージメントに悩まされたことでしょう。

懇親会は総務委員長中野正博の司会のもと、同窓会中西国人常任理事の開会のことばに始まり、大会会長・大山萬夫同窓会長ならびに酒井雄学ゴルフ大会委員長の挨拶と続けました。来賓からは学校法人東京歯科大学・熱田俊之助理事長、東京歯科大学・金子 譲学長に御挨拶をいただきました。その後、同窓会高橋義一専務理事より大会関係の報告が行われ、本大会開催にあたり御協力いただいた神奈川県支部連合同窓会を代表し島村 大先生の乾杯のご発声で懇親会が始まりました。

表彰式は中井英夫競技委員長の競技総評の後、高宮紳一郎競技副委員長による成績発表と賞品授与が行われ、同窓会長杯が一般の部優勝の喜田賢司先生に、学長杯が一般の部準優勝の荻原英生先生に贈られました。シニアの部では優勝の成田賢二先生に理事長杯が、シニアの部準優勝の中尾一成先生に千葉病院長杯が贈られました。また水道橋病院長杯のベストグロス賞は金谷陽介先生が77ストロークで獲得されました。

さらに女子優勝の石山智香子先生には神奈川県支部連合同窓会長杯が授与され、グランドシニア優勝はシ



ニア優勝の成田賢二先生でした。その他、一般20位までとシニア10位まで、それに飛び賞、ブービー賞などがそれぞれの受賞者に授与されました。

本大会の開催にあたり、大学当局ならびに同窓会本部、神奈川県支部連合同窓会から多大なご協力をうけ賜りました事に、深く御礼申し上げます。さらに大会運営にあたりまして、相模原ゴルフクラブならびに同窓会事務局の皆様のご苦勞に厚く感謝申し上げます。

来年の39回大会は平成23年9月8日(木)に埼玉県・武蔵カントリークラブ豊岡コースにて開催の予定です。より盛大で意義のある大会にする所存でございますので宜しくお願いいたします。

最後になりましたが、会員の皆様の益々のご活躍とご発展をお祈りいたしまして、ご報告とさせていただきます。

(大会総務委員長 中野正博)

優勝

喜田賢司先生（平成2年卒）



「あらら」

東京の平岡君から誘いがあり、是非にと浜松から10年ぶりに参加しました。メンバーは同級生の角君、後輩の安田君です。安田君はプロのトーナメントにも出た実力者。このところ調子を落としているといっても、自ずと気合いが入ります。

初めてのコース。キャディさんの協力が必要です。飛ばしにかけては自信があります（因みに8番295yは1オンしました）。キャディさんほどのくらい飛ばすか解っていません。前半inスタートでしたが、大丈夫と言われた池に2発。パットも21で44。

昨年、娘が母校に入学しましたが、受験前、塾の送迎をしました。練習場が近くにありましたので、もう一度真剣にゴルフをやろうと一念発起。2年でHC 9から4に。今年、

地元のクラブ代表にもなり、団体戦に出場します。また、クラチャンにもチャレンジする予定です。

ですから、さすがにやばいと、平岡、角両君がうまそうに飲んでるのを横目に昼はノンアルコールビール。おかげで？後半バーディー発進。すぐに3パットのボギーとなりましたが、2つ取り返し、2アンダー34でした。

何とか格好がついたとほっとビールを片手にワイワイしていたら、なんと名前を呼ぶ声が。一瞬耳を疑いましたが、確かに呼んでいます。あらら優勝しちゃったの？池ポチャ、3パットすべてばっちりまりました。先輩方、すみません。

最後になりましたが、本当に楽しく、すばらしいコースでプレーできたことを関係者の皆様に感謝いたします。

シニア優勝

成田賢二先生（昭和43年卒）



「ゴルフはからだに良いスポーツ」

最高気温38℃。この夏は本当に異常な暑さでした。しかしこのような状況でも、休日はゴルフ場へ行きラウンドするのが私のゴルフライフです。どんなに暑くても休日にはゴルフ場に足が向いてしまうのです。そこまでしてゴルフをするのには、私なりの理由があります。それは今から2年前の夏頃に、腰痛と大腿部の痺れを自覚し、その後徐々に姿勢が左側に傾くようになり、スイングどころか歩行にも支障をきたすようになったのです。整形外科を受診し精査の結果、椎管狭窄症と診断されてしまいました。以前の様なスイングをしたいなら手術が必要と言われて、意を決して、翌年3月に手術を予定しました。しばらくゴルフが出来ない事を覚悟し、手術の前になんとかゴルフを思う存分やろうと仲間

と5泊でサイパンに行きました。6ラウンドを無理承知で、がむしゃらにクラブを振り回して帰ってきました。すると奇跡がおきたのです。なんと腰痛は軽減し、歩くこともクラブを振ることも普通に出来るようになったのです。執刀をお願いした教授にもお墨付きをもらい、手術は無期延期になりました。それからは、自己管理として日常の姿勢、筋トレにはげみ今日に至っています。私の持論としては、ゴルフは身体によいスポーツであり、ゴルフができることは幸せであると感じています。今回優勝できたのは森山先生、藤波先生、海野先生と一緒に楽しく周れ、隠しホールにも恵まれたからだと思えます。また来年の同窓会コンペが楽しみです。ありがとうございました。

成績表

(64歳以下)

(65歳以上)

順位	名前	OUT	IN	グロス	ハンデ	ネット
優勝	喜田 賢司	34	44	78	7.2	70.8
準優勝	萩原 英生	40	41	81	9.6	71.4
3位	町田 貴敏	37	42	79	7.2	71.8
4位	栃木 茂生	41	49	90	18.0	72.0
5位	平尾 文昭	42	45	87	14.4	72.6
6位	海野 智	39	42	81	8.4	72.6
7位	小野寺保好	40	41	81	8.4	72.6
8位	角 讓	49	43	92	19.2	72.8
9位	田辺 靖喜	40	44	84	10.8	73.2
10位	金谷 陽介	36	41	77	3.6	73.4
11位	安田 和光	39	43	82	8.4	73.6
12位	小林 香	48	48	96	21.6	74.4
13位	石山智香子	47	47	94	19.2	74.8
14位	谷 繁信	46	53	99	24.0	75.0
15位	栗林 昭彦	46	47	93	18.0	75.0
16位	西村 哲雄	40	53	93	18.0	75.0
17位	鏡 一郎	51	53	104	28.8	75.2
18位	中島 一憲	48	44	92	16.8	75.2
19位	中西 国人	44	41	85	9.6	75.4
20位	堀 正樹	38	41	79	3.6	75.4

順位	名前	OUT	IN	グロス	ハンデ	ネット
優勝	成田 賢二	40	40	80	10.8	69.2
準優勝	中尾 一成	45	42	87	15.6	71.4
3位	森山 和郎	41	51	92	19.2	72.8
4位	藤波 齊	38	42	80	7.2	72.8
5位	中井 英夫	46	44	90	16.8	73.2
6位	長久保文夫	42	40	82	8.4	73.6
7位	大澤 武雄	43	48	91	16.8	74.2
8位	堺 清一	41	44	85	9.6	75.4
9位	杉原 伸顕	41	49	90	14.4	75.6
10位	古賀 克隆	49	57	106	30.0	76.0
11位	村松 雄郷	47	46	93	16.8	76.2
12位	熊澤 満夫	42	45	87	10.8	76.2
13位	高梨 恒一	44	47	91	14.4	76.6
14位	酒井 勝衛	47	43	90	13.2	76.8
15位	村井 憲一	40	42	82	4.8	77.2
16位	黒須 誠	47	47	94	16.8	77.2
17位	森下昭十三	48	45	93	15.6	77.4
18位	齋藤 哲	47	49	96	18.0	78.0
19位	伊藤 浩	54	53	107	28.8	78.2
20位	矢崎 秀昭	39	54	93	14.4	78.6



東歯関係日歯役員・代議員，都道府県歯会長と 同窓会役員との懇談会

9月恒例の懇談会は、日歯代議員会1日目の9月9日（木）午後6時より飯田橋のホテルメトロポリタンエドモント3階「春琴」にて開催された。

出席者は、日歯役員3名、日歯代議員・都道府県歯会長17名、同窓会役員17名、そして来賓として本学の熱田俊之助理事長もご列席くださいました。高橋義一専務理事の司会進行で、片倉恵男副会長が開会の辞を述べ大山萬夫会長より、「大学とは現在非常によい関係にあり各支部からもご理解いただいている。母校からご依頼のあった寄付に対しては、母校の更なる発展に是非協力したいと考えているので、金額もさることながら一人でも多くの会員に寄付をお願いしたい」という挨拶があり熱田俊之助理事長からは、「大学120周年記念式典を大盛況に開催できたことに感謝している。水道橋移転の件も順調に進んでおり、来年2月位には起工式を予定している。またご寄付に関しても歯科界の環境は非常に厳しいことは重々承知しているが、是非ご協力をお願いしたい」とご挨拶を頂き、公務のためご欠席でありました金子 譲学長の代理として、同窓会監事でもある柳澤孝彰副学長より、「120周年記念DVDは全同窓会会員に送らせて頂いた。同窓の方々から現在のご時世の中で、出来る範囲でご寄付を集めさせて頂きたい。また、文部科学省からはどの大学も特別補助金が減額されているので対策チームをつくり対応してい

る」とお話があった。次に、当日の出席者の紹介があり、報告に移り、第165回日歯代議員会で質問された総括として川越文雄代議員よりご報告を頂いた。また、佐々木真澄総務担当常任理事より会務報告と「同窓会改革提案と本執行部での対応と各部の動き」について説明された。

続いて島村 大渉外担当常任理事より西村まさみ選挙の同窓会としての活動報告、未入会対策、各地域の意見吸い上げ、より強い同窓会にするためのひとつとして各地域ブロック別での渉外部委員会開催を予定している旨の報告があり、梅村副会長より各地域ブロック委員会のあり方について詳細に解説し、また次期日歯会長選挙の取り組みについて説明した。

その後、堤日歯連盟会長、高木日歯連盟理事長、西村まさみ参議員がお見えになり選挙の御礼のご挨拶を頂いた。またその直後、大久保満男日歯会長が、村上恵一日歯専務理事、柳川忠廣日歯常務理事とお見え

になり、大久保会長がご挨拶で「任期は来年の3月までだが、課題山積しているので最後まで気を抜かずの確に対応したい。また今後は『介護を必要な方を医療で支える』を訴えていきたい」とお話された。引き続き協議では「本部同窓会における医政への対応について」、出席者より現執行部は、医政に対して綿密にまた的確に対応しているので、今後続けて欲しいという意見を頂いた。

懇談会終了後の懇親会では、島村常任理事司会のもと、関 泰忠副会長の開会の辞、そして川口 浩衆議員から「文部科学委員会に所属しているの、大学や同窓会の為に出来る限りの事をさせて頂きたい」というご挨拶が力強くなされた。

浅野薫之監事より乾杯の発声で懇親会が終始和やかな雰囲気の中、各代議員の方々より一言づつ頂き、恒例の鳴神保雄顧問からユーモアに富んだ挨拶があり、名残を惜しみつつ田原邦昭総務担当常任理事の閉会の辞で終了した。



卒研レポート2010

SPT の実際

～エビデンスに基づいたメンテナンスとは？～

卒研フォーラムは、2010年9月12日に血協ホールにて90名の受講者が参加して開催されました。

テーマのためか多数の歯科衛生士の方が参加していました。

SPT (Supportive Periodontal Therapy) は歯周治療の予後を左右する重要な療法です。その科学的根拠を微生物学や行動科学の研究、長期症例の提示によって本質を理解し、患者さんと長期に関わってゆくことを学びます。



最初に慶応義塾大学医学部歯科口腔外科の中川種昭教授により SPT の基本についての講演がありました。

プラークコントロール・咬合のチェックを行いポケットの深さに応じて PMTC やディプラーキングを行い、さらに、全身状態の変化を確認しリスク因子の変化を把握して SPT の間隔を決定します。



次に微生物学の石原和幸教授がバイオフィルムの生成過程等について解説しました。歯牙表面のペリクル

にまずレンサ球菌が付着し、グラム陽性菌、グラム陰性菌の順に重なり合って増え、ついにはプラークの深部に歯周病原性を持つグラム陰性嫌気性桿菌群が増殖します。歯周病原性菌は内毒素を産生し、これが宿主の免疫機能を暴走させることにより破骨細胞の活性化が起こり骨が破壊されます。

ここで中川・石原両教授が臨床の現場と微生物学の立場から実際の治療とその根拠について基本から最新のトピックスまで項目ごとに一緒に解説を行いました。なかでは“キスをするとう菌がうつるってほんと？”というテーマがあり、母子感染を含め家族間の感染の危険性が示唆されました。また歯周病患者にインプラントを応用した場合、インプラント周囲炎を起こしやすく、脱落しやすい。種々の歯周病細菌検査があるが、特に有効なのは菌の遺伝子を増殖し同定を行う PCR 法が有効であり、診断、治療、メンテナンスに利用できるが、まだ保険適用とはなっていない。歯周炎への抗菌剤の使用はメトロニタゾール (250mg) + アモキシシリン (500mg) を8時間おきに7日間投与した場合、SRP と同程度の効果が得られたとの文献 (LopezNJ. etalJ. Clin. Periodontol. 2006 ; 33. 648-660) が発表され世界的にはこれがスタンダードとなりつつあるそうです。今話題の「パーフェクトペリオ」について日本歯周病学会はエビデンスが認められないとの見解を出しました。また歯周内科における抗カビ剤の利用にも根拠が認められないとのことです。



引き続き開業医の高柳篤史先生が SPT に患者さんが主体的に参加していただく方法やセルフケアに用いる道具選びを解説しました。

歯科衛生士の今井久美子さんと委員の浅野裕之先生が症例提示をおこなった後オープンディスカッションに移り、講師陣が受講者とともにいくつかのテーマについて討論を行いました。SPT 中断患者へのアプローチ、歯周外科移行の判断、SPT 来院間隔の設定など興味深い話題がありました。特に喫煙は歯周治療全般に大きな悪影響を及ぼすが、禁煙は非常に困難です。これについて水道橋病院における禁煙指導について斎藤 淳講師から説明があり、紹介も可能とのことでした。

最後に司会の高橋潤一先生が SPT の保険請求について、要件を理解し、ぜひ活用してほしいとの説明がありました。歯周治療の最終ステージである SPT のさらなる理解の大きな一助となりました。



(取材・広報部 小池 修)

母校だより

同窓会員より資料等が大学へ寄贈

学位記の寄贈を受ける

平成22年5月、長野県松本市在住の枝 重夫先生（六喜会 昭和33年卒、松本歯科大学名誉教授）から、昭和37年3月に受領された本学第1号の学位記をご寄贈いただいた。

枝先生は昭和33年4月第1期生として大学院に入学し、口腔病理学を専攻され、松宮誠一教授の指導の下で歯学博士の学位を取得された。大



学院の歴史を紹介するうえで大変貴重な史料であり、現在大学史料室で展示・公開されている。



血脇守之助先生揮毫の掛軸ほかの寄贈を受ける

平成22年7月、愛知県豊橋市在住の西村秀祐先生（五十鈴会 昭和25年卒）から、血脇先生揮毫の掛軸一幅、ご尊父西村禎祐先生（大正8年卒）の卒業アルバム、および旧水道

橋校舎の写真をご寄贈いただいた。掛軸には「山で紅いのはつつじにつばき 咲いてからまる藤の花」と磯節の一節が書かれており、血脇先生のくださった一面をのぞかせる貴重な史料である。アルバム・写真ともども、大切に保管し後世に伝えたい。



10月号に同封の「東京歯科大学千葉病院医療連携 NEWS デンタルドットコム」について

「東京歯科大学千葉病院医療連携 NEWS デンタルドットコム」を千葉病院からの依頼により同封させていただきました。

千葉病院では大学機能の水道橋移転後も「地域のニーズに合った先進機能を有した特色ある診療体制」を目指して、新しい診療体制

の具体的検討をしているということです。

このような千葉病院の動きを「何よりも同窓の先生方にご理解いただきたい」という高野千葉病院長のお考えによりこの印刷物をお送りさせていただきます。

Dental Comm vol.6-2
東京歯科大学千葉病院医療連携NEWS デンタルドットコム
2010年9月 東京歯科大学千葉病院 医療連携室 発行
TEL: 043-270-3279(または3641)
URL: http://www.tdc.ac.jp/hospital/ch
錦秋号
千葉病院の今後について
医療連携車2台目始動！
医療連携講演会開催！
□診療科・検診（予定）
※10月24日（日）
※11月1日（日）

会員トピックス

「川口 浩衆議院議員 永田町の1年」

昨年の衆議院選挙で、同窓である川口衆議院議員誕生から1年経ちました。永田町にも少し慣れてきた最近の活動と人となりに焦点を当て、我々の国会議員である昭和54年卒の川口議員にお話しを伺いました。

広報：川口先生、昨年夏の衆議院議員選挙から早いもので1年が経ちました。川口先生の国会での席は新人議員の座る国会の一丁目一番地といわれる最前列、大臣席の前に座っていらっしゃいますが、この1年間そこから何が見えたのでしょうか？

川口：大臣の方々は長時間にわたり答弁を繰り返されるので、心身共に辛抱強い方がなれるポジションだと言うことが見えました。

広報：ところで川口議員は大学生時代にはどのような学生だったのでしょうか？

川口：今も昔も変わらず鉄道が趣味で、時刻表を見て旅程表を作り旅行気分を楽しんでいました。

廃線になった路線のグッズや地下鉄の制服なども収集しておりました。愛読書は「坂上の雲」でして、何か壁にぶつかった時には、初心を忘れる事のないようにと今でも読み返しております。

広報：昭和55年から茨城県取手市で開業されてから30年、日々診療されてきた中で「現在の歯科医療への疑問」「政治家の原点」となったことをお聞かせ下さい。

川口：開業後、介護支援専門員となり、その後訪問歯科診療も始め、介護制度が現場の意見が反映されておらず、十分な介護、治療が施せない状況にジレンマを感じ政治家を志す決心をしました。

現在でもその状況は改善されておらず、訪問歯科診療の現場での歯科医師不足、医科と歯科の格差、指導監査の適切性等々問題は山積しております。

広報：国会議員になる前に2期7年の茨城県議会議員の経歴がありますが、国会議員の現在に繋がるものがあるのでしょうか。

川口：議案の成立方法、省庁とのつきあい方他、独特な慣習が多く、それは、永田町でも変わらず県議会議員7年の経験は非常に役立っております。

広報：国会議員としての活動でこれまでの歯科医としての仕事はどうしているのでしょうか。

川口：自分自身で動けない・寝たきりであるなどの理



由で歯科医院に通院困難な皆さんの「歯・口腔」の健康状態をチェックし「診察・治療」にあたることは、歯科医師としての社会的責務だと考えており、歯科医師を待って下さっている患者さんやその家族のためにも衆議院議員となった今でも「訪問歯科診療」を続けています

広報：大変な歯科の現状ですが、川口先生は歯科の将来に向けてどのような姿勢をお持ちでしょうか。

川口：歯科医の年収は下降を続けており、ワーキングプアとまで揶揄されるようになりました。

今後は、歯科医科連携、企業の健康診断他各種健康診断への簡易唾液検査キットの参入、児童虐待防止法の歯科の関与、訪問歯科診療の一般化等、今までとは違う歯科診療を模索し若い世代が希望と誇りをもてる歯科界にすべきと考え着実に一歩一歩進んでおります。

広報：現在の国会ではどのような活動をされているのでしょうか。

川口：文部科学委員会に属しておりますので今後の歯科大学の在り方および高等教育に関わるすべてについて、アンテナを張りおかしいことはおかしい！と提言してまいります。

現場から離れる事なく可能な限り、診療を続け、疑問を放置せず、きちんと最後まで解答を得る姿勢を貫き、改善すべき点は政策に反映してまいります。

広報：これからの医療政策について簡潔にどのように考えていらっしゃいますか。

川口：構造改革の名の下、医療費は削減され続けていました。その結果として、病院の医師は過労死に近い境遇となり、開業医はやる気を削がれる状況でした。

10年ぶりのプラス改定により少しでも状況が改善され、医療従事者のモチベーションがあがる事を願って止みません。

診療報酬以外にも、医師の卒後研修制度の改悪による人材の偏在施設基準の問題、コンビニの1.5倍になった歯科の需給問題などまだまだ多くの問題はございますが、医療サービスを提供する側も、患者様も、安全で納得出来る環境を整備するよう取り組む所存です。

医療提供者だけでなく、全ての皆様が同じだと思いますが、自分の生活に不安を抱くようでは、安心して仕事に打ち込む事は出来ません。医療過誤を起こさないためにも医療現場のあり方を真剣に考えていく必要があると考えております。今後とも皆様の御意見をお聞かせ下さいませ。

広報：同窓会員並びに同窓会へのメッセージをお話し下さい。

川口：この一年間は、同窓の皆様を支えられた一年でございました。心より感謝申し上げます。

一開業医であれば、年に1、2回程度しか同窓の皆様とお会いする機会はなく、まして、日本全国、色々な地方で同窓の皆様とお会いすることはありませんでした。

数年ぶりにお会いした方の中には私の危機一髪の頭髪をご覧になり絶句された方、笑いをこらえた方、目をそらした方、凝視をされた方、様々な方がおいでになったかと思えます。父からは「これを機に……」と人工増毛を勧められましたが、医学の進歩に望みを託し自然に任せている状況です。何よりも私には、いろ

んな場所で皆様にお会いできることが本当にうれしく、国会議員になって感謝したことのひとつでもございます。

国会議員という職を通じ、同窓の皆様と言葉を交わさせて頂き、しみじみと感じる事は、東京歯科大学の伝統と固い絆です。これは、私の最大の強みであり、武器でもございます。国会議員の諸先輩方からもうらやましがられることも多くその度についつい鼻高々になってしまいます。

これからも東京歯科大卒業生であることに誇りを持ち、皆様に川口 浩を一人前の国会議員に育てて頂けるよう精進してまいります。

同窓の皆様方から少しでも多くのご意見を伺い政策へ反映させていくことが私の使命と考えております。数人の方の集まりでも、どんなに遠くともスケジュールが可能な限り伺います。ぜひ、お声かけください。

最後になりましたが、私の政治団体「政治を磨く会」では、11月17日に「歯科医療の現状と課題について」の意見交換会及び「衆議院議員 川口 浩君を磨く会」を開催致します。

詳細は、ホームページ「<http://www.kawaguchi-hiroshi.com/>」にも掲載してございます。

ご参集頂ければ幸甚に存じます。皆様とお目にかかれる事を心より楽しみにいたしております。

広報：川口先生には国会の座席が現在の新人の座一丁目一番地からさらに後ろの座席に座っていただけるように頑張っていたきたいと願っています。また会員の皆様も同様に先生の国会での活躍を期待されていることと思います。川口先生には同窓会報に「国会報告」等のユニークでユーモアのある投稿をお願いいたします。今日はどうもありがとうございました。

(取材・広報部)



支部のうごき

掲示板

*この掲示板は、同窓会ホームページ <http://www.tdc-tdc-alumni.jp> にも掲載されています。

日程等、決まり次第、できるだけ早めにお知らせください。

印刷、発行日の都合上、会報に載せられない場合がありますが、その場合は同窓会ホームページに掲載されますので、ご了承ください。

事業種目 日時	演題及び講師 又は事業内容	会場	主 催 連 絡 先	外部より 参加可否
学術講演会 平成22年 11月13日(土)	「メタボリックシンドロームと歯 周病」 中川種昭教授 (慶應義塾大学医学部)	かみのやま温泉「月岡ホ テル」 上山市新湯1-33 TEL 023-672-1216	山形県支部 連絡先 担当・歯科医師会 TEL 023-632-8020	支部会員 同窓会員 歯科関係
卒後研修会 平成22年 11月13日(土)	インプラントの基礎 田中 収先生 (バイオプラントアカデミー)	札幌第一ホテル 札幌市中央区南七条 西1丁目12-7 TEL 011-530-1102	北海道地域支部連合会 連絡先 担当・坂田道昭 TEL 0134-22-7770	支部会員
学術講演会 平成22年 11月23日 (火・祝)	歯科治療と全身との関わり 江里口 彰先生 (東京都開業・ 日本歯科医師会常務理事)	琵琶湖ホテル 滋賀県大津市浜町2-40 TEL 077-524-7111	近畿地域支部連合会 連絡先 学術担当・尾松素樹 TEL・FAX 077-522-3210	支部会員 同窓会員 歯科関係
学術講演会 平成22年 11月27日(土) 午後2時	感染症としての歯周病とその治療 中川種昭教授 (慶應義塾大学医学部)	パレアホール第1会議室 熊本市手取本町8-9 テトリアくまもとビル TEL 096-355-4300	熊本県支部 連絡先 学術担当・松田光正 TEL 0969-22-2432	歯科医師 歯科衛生士
学術講演会 平成22年 11月28日(日)	歯肉と口腔粘膜をみる 橋本貞充准教授 (東歯大病理学講座)	名鉄ニューグランドホテル 名古屋市市中村区椿町6-9 TEL 052-452-5511	愛知県支部 支部長・山田 有 TEL 052-822-7515	支部会員
学術講演会 平成22年 12月4日(土) 5日(日)	4日「歯科医に必要な口腔顔面痛 の知識」(仮) 5日「口腔顔面痛…その痛み、本 当に歯が原因ですか?」 井川雅子先生 (静岡市立清水病院・口腔外科)	鳥根県歯科医師会館 松江市南田町141-9 TEL 0852-24-2725	鳥根県支部 支部長・高木瑞穂 TEL 0852-52-2220	支部会員 同窓会員 歯科医師会 会員
学術講演会 平成22年 12月5日(日)	「味覚障害と味覚検査」 田崎雅和教授 (東歯大生理学講座)	ホテルアソシア静岡 静岡市葵区黒金町56 TEL 054-254-4141	静岡県支部 連絡先 総務担当・池原秀樹 TEL 0558-83-1660	支部会員
学術講演会 平成22年 12月11日(土)	「歯科治療時の全身管理-事故予 防と緊急対応の基礎知識-」 一戸達也教授 (東歯大歯科麻酔学講座)	グランドホテル神奈中 平塚市八重咲町6-18 TEL 0463-23-0300	神奈川県支部 連絡先 担当理事・秋山達郎 TEL 0463-31-2249 FAX 0463-31-2207	支部会員
学術講演会 平成22年 12月11日(土)	「補綴における歯科審美への対応 -形態と色彩から-」 佐藤 亨教授 (東歯大クラウンブリッジ 補綴学講座)	三の丸ホテル 水戸市三の丸2-1-1 TEL 029-221-3011	茨城県支部 連絡先 担当・沼田裕之 TEL 0299-96-0080	支部会員 同窓会員

関東地域支部連合会

平成22年9月4日(土)、平成22年度東京歯科大学同窓会関東地域支部連合会総会が開催されました。今年度は埼玉県支部が当番県ということで、さいたま新都心にありますラフレ埼玉にて行われました。当日は、折からの異常気象で猛暑の中、各県から100名を超える多数の同窓に集まっていたいただきました。

まずは総会に先立ち午前11時30分より支部長懇談会が行われました。各県の現状報告の後協議に入り、関 泰忠同窓会副会長より水道橋移転に関する同窓会への寄付依頼は、新血脇記念館と東京歯科大学ミュージアムの建設に対する寄付依頼であり、個人でできる範囲でなるべく多くの同窓に寄付してほしいとの説明がありました。各県より様々な質問、意見が出されましたが、寄付金額に対するしっかりとした裏付け、説明を戴きたいとの要望がなされました。

昼食を挟み13時より、総会が開催され、今年度の連合会会長を務め

る成田賢二支部長の挨拶、物故会員への黙祷と続き、来賓の大山萬夫同窓会会長、金子 譲学長に御祝辞をいただきました。来賓紹介の後、大学からの報告として、再び金子学長に母校のこの1年、そして現状と将来の課題をお話いただきました。本部からは高橋義一専務理事に、同窓会の改革案をいくつかの具体的な提案を示して説明いただきました。

諸報告の後議事に入り、上程されたすべての議案が承認されました。協議事項の後、次期当番県の山梨県の大森浄二支部長に次年度に向けての挨拶をいただき総会は滞りなく終了いたしました。

15時から行われた記念講演会は、講師としてNHK夜のニュースで天気予報を担当しておられる気象予報士の平井信行氏を招き、「最近の異常気象と市民生活」という演題で講演して頂きました。講演は「なぜ埼玉は暑い？」などのクイズ形式で進められ、まさに今年の異常気象とマッチしていたもので、皆とても興



味深く聞き入りました。講演終了後も多くの質問の手が挙がり、予定時刻を越えても丁寧に説明いただきました。

17時からは盛大に懇親会が行われました。成田連合会会長の挨拶の後、来賓の長久保文夫同窓会理事、埼玉県歯科医師会会長の島田 篤先生、同窓で昭和54年卒の川口 浩衆議院議員にご挨拶いただきました。続いて、埼玉県歯科医師会副会長小杉國武先生の乾杯で祝宴となり、終始和やかな雰囲気でお睦を深め、少々お酒も入って楽しいひとときを過ごしました。最後に恒例の校歌斉唱を行ない閉会となりました。

(海野 智 記)

写真が同窓会ホームページ<<http://www.tdc-alumni.jp>>に掲載されています。



信越地域支部連合会

平成22年度総会

去る7月3日(土)、柏崎市「ホテル岬館」において本年度の標記総会が、来賓として同窓会より大山萬夫会長、片倉恵男副会長、飯島和彦理事、母校より高野伸夫千葉病院長、記念学術講演会講師として井川雅子先生をお迎えし、新潟、長野両県同窓57名の参加を得て開催されました。

総会は、岡田泰幸先生による開会の辞に始まり、勝海 昭先生を議長、池田守人先生を副議長に選出し、高垣順吉連合会会長の本総会に出席頂いた来賓方を始め同窓会員への感謝の意を込めた挨拶の後、ご来賓より同窓会並びに母校の現況をご

報告頂きました。引き続き諸報告及び物故会員へ黙祷を捧げた後、議事、協議に移り、次期連合会総会を長野県南信支部担当で開催する案が全会一致で承認されました。広瀬秀副支部長の閉会の辞にて総会を無事終了した後、学術講演会に移り、講師にお迎えした静岡市立清水病院口腔外科の井川雅子先生より、「口腔顔面痛、歯痛および顎関節症と誤診しやすい疾患について-誤って抜髄・抜歯をしないために」と題して、精神医学分野の最新の知見を交えた臨床に役立つ貴重なご講演を、軽妙、快活な語り口でご披露いただきました。

恒例の懇親会は、高垣順吉先生の

開会の辞で宴は始まり、ご来賓挨拶、片倉恵男先生ご発声による乾杯の音頭と続き、終始和やかに懇親の情を深め、宴もたけなわのなか、恒例となっている八百枝正樹先生のリードで校歌斉唱し、五十嵐 治先生による万歳三唱、終宴後も、二次会へと親睦の輪を広げました。

翌日は、柏崎カントリークラブにて恒例の記念ゴルフ大会が開催されました。

優勝 武井利夫先生
準優勝 田嶋繁男先生
3位 岡嶋元久先生

(宇佐美祐一 記)



神奈川県支部連合会

8月1日(日)に、本年度の会員家族レクリエーションが行われた。今回は、千葉県の佐原で小江戸情緒を楽しみ、幕張のアウトレットでショッピングという欲張りな日帰り旅行を企画した。

37名の参加者を乗せたバスは、横浜から首都高・東関道を経由して佐原へと向かった。日曜日の午前中であることも幸いし、道がすいていたため午前10時半には船頭さんの待つ加藤洲十二橋めぐりの船着き場へ到着。いくつかのグループに分かれて女船頭さんの操る「サッパ船」へ乗船した。炎天下の熱中症対策として、船頭さんが用意してくれたキュウリの漬け物をつまみながら、水郷の名残漂う水路をゆっくりと進む楽しい観光となった。

その後、バスで市内の料亭「そう馬」へ移動し、旬の会席料理を満喫。当日、八十歳の誕生日を迎えられた中島善和先生のバースデーケーキがサプライズで登場し、参加の子



ども達から歌のプレゼントと楽しい時間を過ごすことが出来た。ぴりりと山椒のきいた小さな鰻丼は大好評で、大満足のひとときであった。

食後は、近くの造り酒屋を皆で見学したのち、しばらく自由行動となった。佐原といえば日本地図を作った偉人・伊能忠敬の記念館や住居跡があり、それらの見学や街並みの散策へと思いつきの場所へ移動した。

再集合した一同を乗せたバスは最終目的地の幕張へ。移動中、アウトレットパークの案内を熱心に読み、限られた時間を有効に使うべく、予習を怠らない参加者の真剣なまなざ



しに圧倒されながら、30分ほどで到着。日曜日の夕方とあってかなり混雑した状況であったが、それぞれお目当てのものをゲットできたようである。集合写真は、食欲も物欲も満たされたあとの幸せな表情で写っているのがお分かりいただけるであろう。

ちょうどその日は、横浜の花火大会にあたっており、帰りのバスが混雑するのでは?という懸念もあったが道は順調で、楽しい思い出を乗せたバスは横浜を経由し、川崎で解散した。(川越元久 記)



横浜鶴見支部

鶴見東歯会 家族レク開催

8月28日(土)午後6時より、関内駅至近のインドレストラン「モハン」において、会員・家族・従業員レクリエーションが開催された。

横浜に居ながらにして世界の料理を食する企画の第5弾の今年は、異常気象の酷暑を乗り越えるべく本格インド料理である。

夕暮れというのに外の気温は30度超。参加者らは汗を拭き拭き店内へ。赤を基調としたインドの結婚式場をイメージしたという内装と、歌って踊っての「インド映画」の軽快なリズムに、気分はすっかりインド旅行気分。

いつもの如く、開会より早めに集まりインドビールで乾杯。何とも喉ごしがよく、ちょっと一杯のつもりが次々と追加注文。笑顔が素敵な店長のシングさんの粋な計らいで2時間呑み放題のところを「お開きになるまで呑み続けていいですよ」と嬉しい一言。レンズ豆で作った薄い煎餅(パパド)をバリバリやりながら開会前からほろ酔い。

いよいよ開会。はじめに酒井眞一



会長が挨拶し、その中で、本会最年長である平 光雄先生直筆の墨痕鮮やかな色紙を披露され、佐藤秀夫先生がそれを朗読した。本年9月で御年94歳となられた先生の色紙は、息を飲むほど達筆であり、一同深く感銘を受けた。

冷たい飲み物も整い、本田 剛先生の乾杯でインド料理フルコースがスタートした。

大きくてボリュームのあるサモサ(ポテトとグリーンピースの包み揚げ)にサラダ、シークカバブ(ラム挽肉の炭火焼き)にミントのソースを付けて頂くチキンボディカバブ、タンドール(土釜)で焼いたジューシーなタンドールチキンどれも本格インド料理の数々に大満足。生ビー

ルにインドビール、ラム酒、ワインなど思い思いの飲み物とともに楽しんだ。

メインのカレー(チキン、シーフード、野菜、マトンの4種)とふっくら厚みがありモチっとした食感のナンを食べながら、恒例の会員近況報告が行われた。この夏を振り返り、会員からは「あまりの暑さに参った」「孫のお世話で精一杯だった」「いよいよ人間ドックに行ってみた」などと少々お疲れ気味だったご様子。一方、同伴のご夫人、ご家族の皆さんはすこぶるお元気で、趣味や習い事の話、長くて楽しい夏休みの思い出など、目をキラキラさせながら近況をそれぞれ報告した。

デザートのアイスクリューム、チャイ(インドの濃厚なミルクティー)が出されても、ワイン、ラム酒にウイスキー水割り、焼酎と注文を重ね、さすがのインド人の店長もビックリ。最後まで大いに食べ、飲み、語り、夏の疲れも吹っ飛んだ。

午後9時半すぎ。今年めでたく喜寿を迎えられた香山欣哉先生、還暦を迎えられた森田正純先生がインドの民族衣装の帽子をかぶり、全員笑顔で記念撮影。

最後に、森田先生の閉会の辞でお開きとなった。(宇佐美貴弘 記)

写真が同窓会ホームページ<<http://www.tdc-alumni.jp>>に掲載されています。



横浜南部支部

会員・家族

夏のレクリエーション開催

～八景島花火&バーベキュー～

平成22年8月28日(土)午後6時30分より、横浜市金沢区の横浜杉田ゴルフ場アイアンコースにおいて、横浜南部支部毎夏恒例の会員・家族レクリエーションが開催された。金沢区主催の花火大会を見物しながらバーベキューを楽しもうという贅沢な企画である。

花火が打ち上げられる一帯は、海水浴や潮干狩りでにぎわう「海の公園」や「八景島シーパラダイス(水族館, 遊園地)」などがあるレジャー地域で、古くは江戸時代、安藤広重によって描かれた浮世絵「金沢八景」に代表される風光明媚

な地である。

当日は会員の日頃の行いが良すぎたせいか連日の猛暑日。陽が落ちてもうだるような熱気の中、浅川 仁 厚生担当理事の司会で開会した。

玉井達人支部長の挨拶の後、山下正雄相談役の乾杯の音頭で開宴。凄まじい轟音と共にうち上がる美しい花火に箸を持つ手を休ませながら

も、美味しいバーベキューを存分に楽しんだ。また暑さのため、いつもより一層ビールの消費量が増えたことは言うまでもない。

最後の花火がうち上がるころちょうどお時間となり、山下 誠副支部長の挨拶で閉会。その後恒例の記念写真を撮影して散会した。

(渡邊宇一 記)



愛知県支部

平成22年度学術講演会

生半可でない暑さの8月1日(日)午後1時より、愛知県歯科医師会館において標記学術講演会が開催されました。出席者は61名で他大学からも19名の参加がありました。講師には6,500名超の会員を擁する日本顎咬合学会の会長を務めておられた(現在、監事)仙台市開業の菅野博康先生をお招きし、「日常臨床と咬み合わせ～咬頭嵌合位を再考する～」と題してご講演を頂きました。

橋本雅範常任理事による開会の辞及び司会進行のもと、山田 有会長の挨拶、そして菅野先生の御講演へと続きました。

ご講演の中で「咬合は、人間を生きているという営みの中で時に静かに時に強く、そして人生のどのステージにおいても、咬合が消化器系、感覚器系、呼吸器系として関わっており、我々の豊かな生活を支えてくれている。日常歯科臨床の目的は、咀嚼系(顎口腔系)機能の回復及びその維持であり、その為には咀嚼系の健全な育成、咀嚼系の健康管理、健全な咀嚼系機能のための咬合の確立が必要となる。臨床的に咬み合わせの基本となる咬頭嵌合位は重要な咬合位であり、それを評価

し、生理的に安定した下顎位(下顎安定位)との違いの有無を知ることが、日常歯科臨床のレベルを向上・維持する上で必要である」と述べられました。

質疑応答も活発に行われ、矯正と咬み合わせ、チェックバイトの意義、顎路角の本質など実に奥の深い内容へと発展していきました。咬合の輪廻を感じつつ、成瀬 健副会長の閉会の辞にて講演会の幕を閉じました。

講演会終了後、名古屋錦アパホテル

に会場を移し懇親会を開催しました。奥平紳一郎理事の司会、河野幸壱副会長の挨拶、夫馬真也監事の乾杯の音頭で開宴となりました。懇親会会場でも講師の菅野先生に対して咬合と全身の関係、スプリント、チンポイント変法など質問が多くあり、大変盛り上がりました。本日は咬頭嵌合位の大切さ、咬合の有難み、奥深さが身に沁みるとても有意義な学術講演会でありました。

(日比浩樹 記)



ご投稿に際して (広報部より)

会員の皆様方にはいつもご投稿ありがとうございます。同窓会報は会員の皆様方からの投稿によって成り立っています。皆様方から広くまた充実したご投稿をしていただくことが重要な私どもの仕事の一つであると思っております。

ところで、「どのように書いた

らいいの?」ということをよく質問されます。紙面のレイアウトについては同窓会ホームページにひな型を用意してあります。字数と写真の枚数の目安になると思います。是非ご参考にして下さい。

また全国の同窓会会員の皆様方が投稿記事を読む時には、同級生やお世話になった先生が元気に活躍

されている姿を期待しています。

広報部委員会でも、みずみずしく会員の皆様の談笑風景が浮かぶような記事、「この支部ではこんなことをしているのか」というような地域性が出た記事、また逆に「どこでも同じことをしている」という記事も楽しみにお待ちしております。

ふるさと自慢 ～私のお気に入り～

下 関

山 口 県



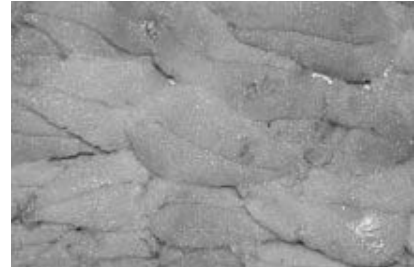
山口県支部の会員は、31名です。とても小さな支部ではありますが、固い結束で繋がっています。その中で下関には7名の会員が有り、県内最多です。そこで此の度は下関の自慢をさせていただきます。

下関といえば、何を思い浮かべるでしょうか。たぶん“河豚”が最初だと思います。河豚料理で全国的に有名なのは、伊藤博文が下関条約を結んだ“春帆楼”です。日本で初めて河豚を食べさせた所で場所は関門海峡を一望できる海岸沿いに有り、隣には平家を祭っている赤間神宮があります。

ここで、下関の歴史に少し触れてみましょう。一番有名なのは、平家滅亡の“壇ノ浦の合戦古戦場”で、次に小次郎と武蔵の決戦の“巖流島”，奇兵隊が決起した“功山寺”など数多くあります。又、坂本竜馬縁の地でもあります。他に有名人といえば、狩野芳崖、北海、乃木希典が下関出身です。

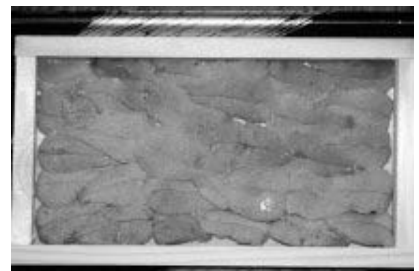


今回は歴史や人物自慢をするわけではなく、海の幸の自慢をしようかなと思います。冒頭で、下関は河豚を思い浮かべるのではと紹介しましたが、冬は本当に河豚が旨いです。冬になると魚屋さんでも普通に河豚は売られていて、捌くには特別な免許が必要ですが、ほとんどの魚屋さんには免許を取得しています。自宅で刺身を魚屋さんから買って楽しむのも良いですが、やはり料理屋さんで食べるのは格別です。その中で、お勧めなのが“古串屋”です。場所は、市の中心部より車で、約15分の所にある長府という城下町にあります。創業は明治4年で、高杉晋作や、乃木希典（長府出身）が通った老舗料亭です。下関では、河豚の事を“ふく”と呼び、古串屋の天然とらふくコースは絶品です。お値段は、下関にしては高価です。内容は、突き出し、ふくさし、とらふくの唐揚げ、白子、ふくちり、ふく雑炊で、かなりボリュームが有り、東京で同じものを食べようと思えば目が飛び出るような金額になると思います。実際、仲間内の東歯同窓会をここで開催しており、好評を得ています。特に関東方面の先生からは、絶賛を浴びました。老舗料亭という事も有り、ふくの吟味や取扱を熟知していて、寝かせの時間や温度管理、お客に出すタイミングなど常に良い物を最高の状態で出そうとする姿勢が有り、本物にこだわっているからです。ぜひ一度は、味わって頂きたいものです。尚、ふくの季節は、秋分の日から春分の日までの間ですの



で、夏は食せませんからご注意ください！

他に下関の海の幸といえばウニが有名です。主に日本海側で取れますがアカウニと言ってとげの多いウニで、北海道で有名なバフンウニとは形が全く違います。ウニ独特な臭いが無く一粒一粒が大きく、箸でつまんでも崩れないくらいしっかりとしています。口に頬張ると、濃厚なウニの風味が広がり何とも言えない美味しさが込み上げて来ます。ウニ嫌いの方でもこのウニだけは食せると思いますので、ぜひ試されてみてはいかがでしょうか。尚、アカウニの旬の季節は、夏から秋までなのでふくの無い季節は、ウニを堪能できません。ぜひ、下関へお越しの際には、ふくとウニを召し上ってみる事をお勧めします。



本州の西の端でなかなか交通の便が悪く、とかく通過点に過ぎない町ではあります。時間が許せば足をのばして、歴史に触れ、舌鼓を打ち、ゆっくりとした優美な時間を過ごしてみてもいかがでしょうか。一見の価値有りですよ！！

(昭和59年卒 福田伸和)

クラス会だより

クラス会開催日程

踏 志 会 (昭和41年卒)

と き 平成22年11月13日 (土)

と ころ 浅草橋 屋形船『三浦屋』

(宿泊・水道橋 東京ドームホテル)

正 和 会

昭和51年卒

本年6月1日付けにて高野伸夫教授が千葉病院の病院長に、河田英司教授が教務部長に就任されました。そこで、我々「正和会」は両君の就任をお祝いすると共に今後のさらなるご活躍を祈念し「高野伸夫君、河田英司君を励ます会」を開催することとなりました。

平成22年7月31日東京ドームホテルにて午後6時30分より「励ます会」は開催されました。当日は連日の猛暑日の中、また、隅田川の花火大会が行われるという中、39名の会員が各地より集まってくださり、高野、河田両君にはご夫妻で参加していただき、総勢43名の祝賀会となりました。

ほぼ定刻より木俣 茂君の司会で祝賀会は始められました。まず、今回の幹事の一人である山田俊治君よ

り会の開催趣旨と、今後のお二方のご活躍を期待するとの開会の挨拶がありました。続いて河田教務部長からのご挨拶は、大学の近況のお話があり、その中で我々も最も関心を持っている大学の水道橋移転についてのお話をしていただき、さらに現在各歯科大学で入試時の定員割れがみられる中で、各高校へ出向き大学のガイダンスをおこない、東京歯科大学のアップールに努めている事のお話をしていただきました。高野千葉病院長からのご挨拶は、東京歯科大学千葉病院は黒字経営であり、他の歯科大学付属病院の中では一番であることのお話をしていただき、また、大学の水道橋移転後も千葉病院は存続していくとのことでした。

長谷部方彦幹事の音頭により、我がクラス会の綺麗どころからお二方

へ花束の贈呈に引き続き、いよいよ懇親会となりました。当日熊本より駆けつけてくれた福嶋修治君の乾杯に始まり、会場内の各テーブルでは少し話をしている間に学生時代に帰り話題が尽きないくらい大いに盛り上がり、47階の会場でありましたので隅田川の花火も見ることができ、あっという間の2時間でありました。最後に幹事のお手伝いという東郷幹夫君より閉会の挨拶があり、各自赤ら顔になりながら集合写真の撮影で本会は終了となりました。二次会は同ホテルの43階で行なわれ、河田、高野教授を含め半数近くの会員が残り、午後11時30分閉店近くまで話は尽きませんでした。

今回このような会を企画、準備してくださり、当日もいろいろ気を配っていただきました幹事の方々に心から感謝いたします。

(古澤博行 記)



写真が同窓会ホームページ<<http://www.tdc-alumni.jp>>に掲載されています。

OB会・グループ・サークルだより

少林寺拳法部 OB 会

高野伸夫千葉病院長，井上 孝大学院研究科長ご就任祝賀会

連日のうだるような猛暑の中，平成22年度東京歯科大学少林寺拳法部 OB 会総会が東京千代田区の如水会館で開かれました。石原 忍 OB 会会長の開会の挨拶の後，会務・会計の報告と議事が滞りなく行われ，役員も変更無く現役部員の支援等今後の方針が示されました。

引き続き，高野伸夫先生の千葉病院長・井上 孝先生の大学院研究科長のご就任祝賀会が52名という多数の先生方の出席のもとに開かれました。総会同様，石原 忍 OB 会会長の挨拶の後，ご来賓の方々からお祝いのお言葉を頂きました。まず最初に喜寿を迎えられますお元気な浅井康宏前部長から両先生への力強い励ましのお言葉を頂き，鈴木慎二少林寺拳法部師範より少林寺拳法の精神にのっとして大学・大学院・クラブの発展のために頑張っていたきたいとお言葉を頂きました。

それを受けて，高野伸夫千葉病院長先生から少林寺拳法部 OB 会の暖かい支援へのお礼と患者様から信頼される病院作りを目指したいとお言葉をいただきました。また井上孝大学院研究科長先生からは，大学における教育～大学・臨床～病院・研究～大学院という3本の柱のうち2つを少林寺拳法部が受け持つ事の意義と，今後もクラブの発展に力を尽くしたいとお言葉を頂きました。

その後，両先生へ OB 会長から記念品の贈呈が行われ，それに続き鈴木師範と鈴木四郎先生による模範演武が披露されました。アラ還とは思えないスピードと力強さのすばらしい演技に参加者から盛大な拍手が送られました。その後 OB 会の最長老であります佐瀬俊之先生の乾杯の御発声で祝宴となりました。昭和46年卒から現役まで幅広い年代ではありましたが少林寺拳法という強い



つながりで，和気あいあいとした中にも高野・井上両先生がクラブの誇りである事，またこれからのご活躍への期待する話にあっという間の楽しい時間を過ごさせて頂きました。

最後に監事の北村家康先生から閉会の言葉を頂きお開きとなりましたが，お忙しい中ご参加いただきました多数の先生方に御礼を申し上げますと共にご来賓の方々のご健勝と高野・井上両先生のこれからのご活躍をご祈念申し上げご報告とさせていただきます。

(昭和56年卒 黒田真右 記)



第1回バスケットボール部OB会

「還暦を祝う会」

本誌本年6月号の「セピア色の写真館」に登場された戦士達の中にも、いよいよ還暦を迎えられる方々がおられるということで、第二期黄金時代（自称）の先生方から、お祝いはどうかと提案されました。早々に全国の仲間達に連絡を取りましたところ、多くの賛同を得て開催が決定されました。

短い時間での準備となりましたが、51年卒業の黒澤祐一先生（仙台在住）を発起人代表として準備を進めることとなりました。

開催日を毎年恒例のOB、OG会として前日に発起人会を開催する運

びとなりました。

7月18日、東京駅八重洲口「海賓亭」に全国から十数名の戦士達が集結しました。

中には十数年ぶりに再会するメンバーもおり「髪の薄土」「腹の出具合い」「昔話」と話題は尽きず、後に合流した仲間達と二次会、三次会と盛り上がりましたが、明日の紅白戦に向けて、渋々お開きとなりました。

7月19日、OB、OG会当日、稲毛の体育館に、関東医歯薬2連覇を果たした黄金時代の戦士達が、当時のユニホームを現代版にリニューアルした真紅のユニホームを着て紹介されました。

入念なアップの後、現役女子部との紅白戦を当初10分程度考えておりましたが、超OB、OGの力を借りての40分のフルゲームとなりました。

ブランクを感じさせない好プレーに館内より大きな拍手、又、足のもつれる場面での失笑もありましたが、日頃よりスキー、アスレチックジム、中には現役マスターズチーム

の一員で体を鍛えておられる先生方の活躍で勝利するという予想外の結果となりました。

現役女子部の皆さんには、加齢臭に耐えて、お相手して頂きありがとうございました。

試合終了後、全選手の自己紹介、記念写真の撮影を終えて、最後に還暦を迎えられた先生方より、現役選手へオールデンタルへの激励金が、中村監督に手渡され、閉会致しました。

次回からは、ゴルフコンペの開催、現役選手達を交えた懇親会といくつかの企画が提案されましたので実行して行きたいと考えておりますので、宜しく願い致します。

今回、還暦を迎えられた参加者
 中野 一博先生（49年卒）
 片桐 博陽先生（50年卒）
 村田憲一郎先生（50年卒）
 佐々木 元先生（52年卒）
 塩田 雅朗先生（53年卒）
 おめでとうございました。

（53年卒 野田 修 記）



柿澤 卓先生を慰労する会 将棋部 OB 会

平成22年7月10日（土）、将棋部創設メンバーが中心となって、6月で水道橋病院長を退職なさった柿澤先生を慰労する会を新宿「隠れ野」で開催しました。どこぞの温泉で盛大にというプランもありましたが、昨今の経済状況からいつものように居酒屋で浴びるほど飲むという設定になりました。当日の出席者は、やはり昨年水道橋病院を退職なさり、柿澤先生とほぼ同じ期間副部長を務めていただいた松井 隆先生（現東京都社会保険診療報酬支払基金常勤審査員）を始め、山 滋、望月 彰、金子 節、古屋 博、小林 寿、紺野義之、安藤浩徳という、「王将」を取られてもなお自分が強いと言いつ張る屈強のメンバーでした。

柿澤先生には、なかなか部長を引き受けて下さる先生がいない中、無理をお願いをして約30年の長きにわ

たり将棋部部長を務めていただきました。現在は「首都医校」で病理学などの教鞭をとられているとのこと、その苦労話をうかがいました。私が学生の頃を思い出すと、わざわざ長野からみえた開口障害の紹介患者に対し、私に「とりあえずマル模を取っておけ。」と指示され、エイ、ヤー！と無理にトレイを口に入れたら、「先生、口が開きました。」と、患者さんに感謝されたという記憶があります。これでよかったんだろうかと悩む私に「お前は教授だよ。」と大笑いして褒めて下さいました。

将棋の話になると、望月が大事な対医歯大戦で、「オー、龍取られちゃったよ。」と相手の角の効き筋に飛車を成り、ポイントゲッターが敗れ団体戦優勝を逃した話や、金子がまだ勝敗がついていないのに形作

り（注；プロ棋士が形勢に差のついた将棋をアマチュアにわかるように棋譜を整えること。）をする話、また、山が序盤を失敗し自玉に必死（次に王手で、必ず王将を取られるという状態）がかかってしまったが、王手、王手と攻めまくり、まだ詰んでいないのに相手は嫌気がさして投了（負けを認めること）し、体力で逆転勝ちしたことなど昔話に花を咲かせました。

今回の会合には、欠席の会員多数からご寄付をいただきありがとうございます。この場を借りて御礼申し上げます。また、名簿不備なため今回連絡できなかったOBには、このような会にご参加いただけるようでしたら、メール等で連絡いただきたいと思います。

連絡先 sigyama@mx.2.ttcn.ne.jp

現在、将棋部の現役員は活動休止しているようですが、新部長に矢島安朝教授（口腔インプラント学講座）を迎えて水道橋移転に向けなんとか部室を確保し、このユニークな人材の集うクラブを存続してもらいたいと思います。

（山 滋 記）



すいどうぼし

硬式テニス部戦後の復活と幻のリヂレートロフィー

齋藤 久（昭和24年卒）

昭和20年敗戦の年、専門学校1年生として水道橋校舎に復学出来たのは秋風の立つ頃だった。4階建ての校舎は激しい爆撃にもよく耐えたが、屋上には焼夷弾の痕が点々とあった。吹き抜けの中央ホール硝子ドームを破り落下した焼夷弾を消しとめた先輩の武勇伝をよく聞かされた。校舎周辺から神田界限は一面の焦土で、辛うじて焼け残ったビルの間から地平線がみえた。しかし戦後の混乱・絶望・虚脱から抜け出すのは思いのほか早かったと記憶している。十分若者であった私達も学生らしい部活動を求める余裕も出て来た。テニス部に限らず、練習場所と用具の調達が出発点だった。昭和22年、日大出身の織田寅雄先生という方が、日本占領連合軍司令部（GHQ）を訪問し、公衆衛生歯科部長デイル・B・リヂレー少佐と面談、日米歯科医師テニストーナメントの開催とトロフィーの寄贈の約束をとりつけた。翌昭和23年6月5日第一回日米歯科医師リヂレートロフィーテニス大会が新設された皇居内パレテニスクラブで開催された。何もか

も耐乏の世の中、大手門から入る皇居内のクラブは別世界だった。出場選手は織田先生以外は殆ど東歯のOBと、私達4年生、旧制予科生で占められていた。その理由は他校の硬式テニス部の少なさだった。同級生でキャプテンであった熱田君（現理事長）が当時の回想を、同窓会100年誌の中で詳細に語られているので内容については割愛させて頂きたい。私にとって忘れ得ぬ思い出は優勝トロフィーを手にした渡邊兼良先生（昭和17年卒）の見事なプレー振りだった。昭和24年同じ会場で第2回大会が行われ、初めて大阪歯科の現役数名の参加があった。補綴の研究生だった私は医局長の福本忍先生を誘い参加した。大会内容は記憶にないが恐かった福本医局長の異なる一面に触れた事と、医局員の応援も有難かった。平成21年11月硬式テニス部創部70周年パーティーが幕張のホテルで盛大に行われた。挨拶に立った熱田理事長が懐旧の情を込めリヂレー杯の事を語った。私も行方不明のトロフィーを探し出すことが幸せな一刻につながる気がした。渡邊先生は既に故人になられ、

トロフィーは織田先生に望まれ差し上げたと聞いた。日大同窓会でのしらべでは、織田先生も亡くなられていたがご家族の消息は不明だった。年が明けて友人の日大出身の先生から、突然「ご家族の住所が判りました」と知らせがあった。東京都小都市に住む御長女に不躰とは思ったが手紙と写真を送った。丁重な礼状と織田先生が会誌に載せた「半世紀の回顧」と題するコピーが送られてきたのはそれから間もなくだった。先生は東京大空襲に罹災しご両親を失くし新潟に疎開。上京しては、大会運営に当たられていた。御長女はその頃1～2歳であったこと、又昭和27年迄大会を続けたこと等知らないことばかりだった。期待したトロフィーは家中探して下さった様だったが無かった。敗戦直後の日本、地方都市に住む1歯科医がいかなる接点があったのか不明だが、当時の権威の象徴であるGHQを訪問された事実はトロフィー保持者として異論はないと思う。この原稿を書く事で当時を思い起こし、改めて今は亡き織田先生の勇気と渡邊先生の優しさに感動を頂いた。



リヂレートロフィー 高さ35cm(黄金色)



庶務日誌

- 9月
- 1) 理事会
9月11日(土) 第4回理事会
- 2) 委員会
9月8日(水) 事業系ワーキンググループ
10日(金) 広報部委員会 (会報編集)
13日(月) 保険部委員会
13日(月) 学術部委員会 (将来像検 B 討委員会)
14日(火) 学術部委員会 (プログラム委員会)
15日(水) 会則検討委員会
17日(金) 学術部委員会 (運営委員会)
22日(水) 情報部委員会
22日(水) 学術部委員会 (委員研修会)
27日(月) 学術部委員会 (企画委員会)
29日(水) 学術部委員会 (研修委員会)
30日(木) 学術部委員会 (研究部委員会)
30日(木) 総務部打合せ
- 3) 出張
9月4日(土) 関東地域支部連合会総会 (埼玉県支部担当) 大山会長, 関副会長, 高橋専務理事, 長久保理事出席
学術講演会 講師・平井信行氏 (気象予報士)
12日(日) 東海地域支部連合会総会 (岐阜県支部担当) 梅村副会長, 高橋専務理事, 島村常任理事, 宮田理事出席
学術講演会 講師・小出宣昭氏 (中日新聞東京本社代表)
18日(土) 全国歯科大学同窓・校友会懇話会
大山会長, 宮地・梅村副会長, 高橋専務理事, 山本常任理事出席
29日(水) 東京地域支部連合会学術講演会 講師・伊藤 守氏 (株コーチ・エイ)
- 4) 事業
9月2日(木) 同窓会主催全国ゴルフ大会
7日(火) 全国歯科大学同窓・校友会懇話会準備会
9日(木) 東歯関係日歯役員・代議員, 都道府県歯会長と同窓会役員との懇談会
12日(日) TDC 卒後研修セミナー [卒研セミナー (No.6 SPT の実際)]
- 10月
- 1) 理事会
10月16日(土) 第5回理事会
- 2) 委員会
10月1日(金) 学術部委員会 (運営委員会)
1日(金) 会則検討特別委員会
4日(月) 厚生部委員会
4日(月) 学術部委員会 (プログラム委員会)
5日(火) 保険部委員会
5日(火) 全国社会保険指導者懇談会・懇親会
12日(火) 総務部打合わせ
13日(水) 広報部委員会 (会報企画)
18日(月) 学術部委員会 (研究部委員会)
19日(火) 事業系ワーキンググループ
25日(月) 学術部委員会 (企画委員会)
27日(水) 情報部委員会
- 3) 出張
10月2日(土) 北海道地域支部連合会役員・支部長会
梅村副会長出席
16日(土) 九州地域支部連合会総会 (佐賀県支部担当) 梅村副会長, 臼井常任理事, 濱田理事出席
31日(日) 東歯祭 片倉副会長出席
- 4) 事業
10月6日(水) 全国歯科大学同窓・校友会懇話会準備会
17日(日) TDC 卒後研修セミナー [卒研セミナー (No.7 咬合育成の基礎と臨床)]

逝去会員

下記の会員が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表し心からご冥福をお祈り申し上げます。

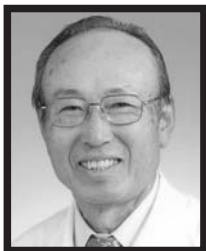
(敬称略・届出順)

●昭 5 卒	谷 忠 明 (101歳)	22. 7. 28
高知県支部	〒789-1201 高岡郡佐川町甲1704	
●昭 36 卒	本 間 正 敏 (74歳)	22. 8. 1
横須賀・鎌倉支部	〒238-0012 横須賀市安浦町1-3	
●昭 41 卒	紺 野 虔 一 (71歳)	22. 5. 11
八南支部	〒206-0823 稲城市平尾2-1-12	
●昭 24 卒	相 馬 昭 一 (81歳)	22. 8. 5
山形県支部	〒990-2443 山形市南三番町4-21	
●昭 47 卒	浅 野 順 平 (63歳)	22. 8. 5
三重県支部	〒514-0803 津市柳山津興千鳥町1619-1	
●推薦会員	清 原 利 夫 (95歳)	22. 7. 13
足立支部	〒123-0872 足立区江北2-32-6	
●昭 14 卒	財 満 史 郎 (93歳)	22. 8. 8
山口県支部	〒752-0966 下関市長府亀の甲1-3-3	
●昭 16.12 卒	水 野 芳 郎 (95歳)	22. 8. 9
岐阜県支部	〒509-0207 可児市今渡870	
●昭 41 卒	山 口 忠 臣 (68歳)	22. 8. 19
福井県支部	〒910-0023 福井市順化1-21-17	
●昭 31 卒	氏 家 英 峰 (79歳)	22. 8. 19
埼玉県支部	〒332-0034 川口市並木3-34-21	
●昭 36 卒	石 井 康 之 (75歳)	22. 8. 20
板橋支部	〒175-0093 板橋区赤塚新町1-21-6	
●昭 19.9 卒	大 門 清 美 (86歳)	22. 8. 25
福岡県支部	〒829-0122 築上郡築城町伝法寺410	
●昭 18.9 卒	高 田 哲 三 (87歳)	22. 8. 31
栃木県支部	〒320-0043 宇都宮市桜2-7-9	
●昭 17.9 卒	平 野 正 毅 (89歳)	22. 9. 1
愛知県支部	〒443-0043 蒲郡市元町19-20	
●昭 19.9 卒	染 谷 修 一 郎 (87歳)	22. 2. 23
茨城県支部	〒302-0110 守谷市百合ヶ丘2-2560-1	
●昭 42 卒	永 田 義 昭 (66歳)	21. 3. 30
丸の内支部	〒162-0801 新宿区山吹町4-4 プラウドフラット神楽坂2-801 永田歯科	
●昭 16 卒	井 上 良 和 (93歳)	22. 9. 7
北多摩支部	〒181-0004 三鷹市新川1-11-4	
●昭 32 卒	木 村 昌 夫 (86歳)	22. 9. 8
目黒支部	〒153-0053 目黒区五本木3-16-1	
●昭 50 卒	須 永 一 (60歳)	22. 9. 15
埼玉県支部	〒366-0828 深谷市東大沼111-2	
●平 8 卒	横 矢 昌 彦 (40歳)	22. 9. 15
高知県支部	〒780-0971 高知市南万々125-6	

- 昭 18.9 卒 麻 生 謙 介 (89歳) 22. 9. 19
札幌支部 〒002-8072 札幌市北区あいの里二条6丁目3-2-803
- 昭 46 卒 橋 本 健 (63歳) 22. 9. 22
小石川支部 〒112-0002 文京区小石川4-19-6-401
- 昭 59 卒 清 信 茂 夫 (52歳) 22. 9. 25
荒川支部 〒116-0001 荒川区町屋6-15-5-502

追 悼

久野 勇君を偲んで



5月26日の早朝、久野夫人から「主人が亡くなったの、今朝早く」との電話があり、思わず立ち竦んでしま

まった。以前から、入退院をくり返していたことは十分認識していたが、半月程前には、退院したらステーキと鰻が食べたいなどと軽口をたたいて、10月に横浜で行う八紫会50周年に出席するのを楽しみにしていたのに、残念でならない。

学生時代は豪放磊落ぶりで、九州男児の面目をいかに発揮し、細

かいことに拘泥しない反面、実際には非常に繊細な神経の持主だった。酒と友をこよなく愛し、麻雀以外の遊びは何でもやった。字が上手なのと、補綴技術の器用さには感心させられたものである。

卒業後は東京駅前の診療所に勤務し、そこで生涯の伴侶たる典子夫人と出会い、彼女を伴って佐賀の実家に帰ってから、久野君の歯科医師としての真骨頂が発揮されたのである。現在からでは想像もつかない激務であった診療の傍ら、歯科医師会の仕事、さらにその上に久留米大学で医学博士号を取得し、ライオンズクラブでの社会奉仕を行ってと、ま

八紫会 (昭和35年卒)

さに八面六臂の活躍だった。しかし、久野君の究極の仕事は、地域歯科医療に徹することにあつたと思う。佐賀での葬儀には、会場が花で埋めつくされ、どこにこんなに多くの人々がいたのかと思う程、君を偲ぶ人が駆けつけてくれた。号泣する人々も各所に見られ、君の生前の人柄が偲ばれたものである。

佐賀空港から久野家に向かう途中、あたりは一面の黄金色であった。ビール麦の収穫期であった。

この土地に生まれ、活躍し、町民に愛され、最後はこの内なる大地に帰って行ったんだ。合掌

(宮下恒太 記)

石井康之君を悼む



石井康之君(75歳)が肝臓ガンで死去した訃報は突然に届いた。原発は、肺臓ガンだったそうだが、彼は煙

草も吸わないし、酒は一滴も飲まなかった。

我々が昭和29年、東京歯科大学に入学した当時の進学過程はA・B・Cの3クラスに分かれていて、その後もクラス換えをしないまま6年間を過ごした異例な学年だった。

我々はCクラスだったが、石井君はCクラスの成績1番で合格したので、「クラス委員」をしていた。それから56年間の交流だったが、目立

たず、飾らず、穏やかで誠実な人柄は誰からも好かれていた。

趣味といえば、競馬とマージャンだったと聞く。それも半端じゃなくて、亡くなる寸前の病床にあって、治って「新潟競馬」に行くことを楽しみにしていた、とご子息が話した。

卒業後もCクラス会は、毎年のように旅行を兼ねた懇親会を開催して数えること48回、彼は一度も欠席したことがなかった。

彼について思い出に残る旅行といえば、平成5年の大分・国東半島の熊野磨崖仏の見学のとき、長時間の坂道を登ったために磨崖仏の前で彼が心臓発作を起こして倒れ、救急隊を要請して下山したというハプニン

久喜会 (昭和36年卒)

グがあった。

それから毎年のように参加した。今年の秋に計画している「伊豆旅行」を楽しみにして、いつもは締め切りぎりぎりの参加の返事をしてきたのに、今回はすぐに出席の返事をした、と奥様の話だった。

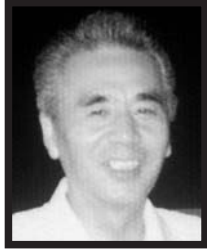
旅行に行っても、夕食が済むとすぐにもマージャン仲間4人衆と一緒にマージャン室に籠りきりだった。

今回の彼のご逝去にご家族の悲しみはいかばかりかと思うにつけ、残された3人のマージャン仲間が悲しそうだったのが心配だ。

ご冥福を心からお祈りしたい。

合掌
(浜野文夫 記)

本間正敏君を悼む



本間正敏君(74歳)が突然ご逝去された。

訃報に接したのは、神奈川県東歯同窓会会員・家族・従業員懇親旅行で千葉県・香取市周辺の「水郷めぐり」から帰ったばかりだった。

脳梗塞という診断が付いたのは、救急車で入院してから1週間後のことだったと聞く。そのために適切な処置が遅れ、危険な状態を繰り返しながら2週間目に急逝した。

目を閉じたお顔は、今にも起き上がって笑顔を見せてくれるような穏やかさが、却って皆の涙を誘った。

同期生の突然の死亡は驚きと悲し

みが切実に胸に響いてくる。本間君との出会いは大学入学の56年前だが、同じ神奈川県に在住する関係上、特に親しかった。

同窓会の会合ではいつも顔を合わせ、彼の住む横須賀には度々訪ねては飲んだり語ったりした。料亭の『小松』や「松輪のサバ」「鴨居のタコ」など横須賀での『味の旅』は本間君としばしば一緒だった。

いつも笑顔を絶やさぬ穏やかな人柄で、今も笑顔しか思い出せない。

彼が好きだったのは京都と阪神タイガースだった。京都の『南一』という料理屋には年に2度は通い続けたという。一度だけ同行したことがあったときのことが思い出される。

「とらきち」と呼ばれる熱烈な阪

久喜会（昭和36年卒）

神タイガースのファンだった。葬儀の式場には遺品として縦じまのユニフォームや帽子が飾られていた。また、「六甲おろし」の阪神応援歌がBGMで流れていたほどだった。

彼の交友関係は広く、歯科医師会関係はもとより中学、高校、ロータリーなど、通夜の客は600人を超すほどに多数の人が弔問に参列した。

彼は大学同期会（久喜会）の幹事を長年やっていて、彼がいなくては判らないことが多くて心配だ、と代表幹事の困惑した顔が目に見えふ。

残された奥様と後を継ぐ歯科医師のお嬢様は、これからはもっと寂しくなると考えられるが、きっと立ち直れることを願いつつ、同時に彼の冥福を心からお祈りしたい。合掌

（浜野文夫 記）

福島 直氏逝く



福島^{なおし}直氏が亡くなった。

東歯大12期生（1964年卒）の氏は奥様の故郷である九州で病氣療養中のところ、2010年7月22日ご長女のまどかさんはじめご家族に見守られながら、旅立った。享年79歳であった。

告別式は7月31日、東京都世田谷区砧の東京メモリードホールにおいて神式で行われた。喪主はご次男の福島 津さんと、式の最後にご挨拶とともに経過の報告があった。

式は2人の神官によって進行した。正面には花輪に囲まれた故人の写真が飾られ、独特の軽く唇を引き締めた表情で、にこやかに微笑んでおられた。弔辞はいずれも同期生の金子 讓（東歯大学長）、丹野 研

（12期会会長）、片倉恵男（友人代表）の3氏が担当。打ち合せなしにもかかわらず重複なくそれぞれに特徴があり、不謹慎と非難されることを承知のうえで喩えれば、波乱万丈の人生を送った故人を、正当に歴史を交えて回顧評価する講談調、入学試験のエピソード等を織り込んだ落語調、故人の人柄や趣味（酒、旅）にまつわる涙と笑いを交えた浪曲調で締めくくった。いずれも胸を打つ内容であった。

仏式と異なり焼香はなく、ご遺族と参列者は全員玉串を神前に供えたあと、順に退場した。このあと喪主のはからいで、全員に直会へのご案内があり、別室に移動した。献杯の後、交流の広がった直^{チヨク}さんだけに、参列者は故人を偲びながらも久々の再会に喜ぶ立ち話の姿が、会場のあちこちで見受けられた。

12期会（昭和39年卒）

直氏は父秀策氏（東歯大第2代学長）、母輝子さんの三男として昭和6（1931）年1月5日に生をうけ、昭和20（1945）年大陸で敗戦をむかえた。父君を残しての引き揚げ後、昭和28（1953）年東京学芸大学を卒業。武蔵野市立武蔵野第4小学校の教師をしていたが、昭和33（1958）年東歯大に入学する。同期生では、既卒者の中でもダントツの最年長学生であった。しかし、年長であることや家柄をひけらかすことなどはツユほどもなく、むしろ引け目にしていたふしがある。そうした人柄や大陸的風貌から広い人望があった。普段は控えめで開業後も「たのまれ調整役」に徹していたと思われるが、紙数の都合で割愛する。合掌

（吉澤信夫 記）

◆投稿規定

- (1) 原稿締切り
原稿の締切りは、奇数月の10日までとし、原則として翌月発行の会報に掲載いたします。
- (2) 投稿様式
投稿は原稿用紙に横書きとし、便箋などの使用はご遠慮ください。ワープロ使用の場合は1行16字で設定して下さい。写真はピントのあったものを、大きいサイズ(2Lなど)で、集合写真のみでなく、スナップなども添えて下さい。
- (3) 投稿字数
 - ① 「すいどうばし」欄(随想、詩、短歌、時評など)は、1編1,600字程度
 - ② 「支部のうごき」「クラス会だより」は、本文のみの場合1,600字程度。写真が入る場合、3段抜き900字、2段抜き400字、1段抜き200字減らして下さい。
- ③ 「追悼」は、500字程度
- (4) ご投稿いただいた原稿は原則として原文のまま掲載いたします。ただし、紙面の都合により加筆削除等お願いすることがありますので、ご了承下さい。
なお、掲載については委員会にご一任いただきます。
- (5) 写真等の返却
写真等は、原則として返却いたしません。特に貴重な写真などの場合は、その旨書き添えて下されば返送いたします。
写真は同窓会ホームページにも掲載されることがあります。

電子メールでの投稿は同窓会ホームページ<http://www.tdc-alumni.jp/membersonly/kouhoubu.php> をご覧下さい。

◆へんしゅうこうき

- ★ 気象庁の発表によると、今年の夏(6~8月)は1898年の統計開始以来113年ぶりの高温となったそうです。これは、ラニーニャ現象、ジェット気流の蛇行等に加え、温室効果ガスによる地球温暖化の影響によるもので今後もこのような異常気象が出現することが予測されています。来院して下さる患者さんも、診療時にお顔に触ると驚くほど熱くなっており、特にお年寄りの方はいらっしゃるだけでも大変なようで、お気の毒に感じます。こんな夏が続くと社会活動にも深刻な影響が出かねません。
- ★ 帝京大学病院で明らかとなった多剤耐性アシネトバクター菌による院内感染が問題となった矢先、独協医科大学病院ではNDM1遺伝子を持つ大腸菌が検出されました。多剤耐性菌は安易な抗生物質の乱用により発生するとされ、近年はインドやパキスタンで広まっており、世界的な流行が懸念されています。私達も日常臨床における抗生物質の適切な使用に、より一層の留意が必要と考えます。
- ★ 前号にてご承知のことと思いますが、母校の120周年記念事業となるメインキャンパスの水道橋移転に伴う新血脇記念ホールならびに東京歯科大学ミュージアムの建設にあたり、募金活動が開始されました。血脇イズムの継承と歯科医学の歴史の象徴ともいえる2つの施設が、新生東京歯科大学水道橋キャンパスのバックボーンとして設立されることは大変に意義深いことと考えます。申込期間は平成24年12月30日までとなっています。近年の歯科医療界の低迷の中、募金をするのは決して易しいことではありませんが、「血は水よりも濃し」将来の母校、ひいては明日の歯科医療界の発展を願って支援の一步を踏み出したいと思えます。

(小池 修 記)

広報部委員会

委員長 三友 和夫
委員 東郷 幹夫
小池 修
古澤 成博
尾崎 圭子
福井 雅之
渡邊 宇一
島田 篤

広報部担当理事 白田 準

平成22年10月20日 印刷	発行人 白 田 準
平成22年10月25日 発行	編集人 三 友 和 夫
東京歯科大学同窓会会報 第378号	東京歯科大学同窓会
同窓会ホームページアドレス	〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-9-18
http://www.tdc-alumni.jp	電話 (03) 5275-1761
	FAX (03) 3264-4859
	印刷所 一世印刷株式会社
	〒161-8558 東京都新宿区下落合2-6-22
	電話 (03) 3952-5651 (代)